

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和7年(2025年)

4-5月号

(通巻 217号)

2025年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

ウグイス

身近な鳥ですが、やぶを好み、よく動くので、なかなか姿は見られません。さえずりばかり、よく聞こえます。

P1 ☀️ いきもの写真館
ウグイス

P2 / 3 ☀️ 長田谷津いきもの暦
4月と5月の暦

P4 ☀️ 花を透明にして観る
ホトケノザ

P5 ☀️ 長田谷津のとりたち
エナガ

P6 ☀️ くすのきのあるバス通りから
どんな花が咲いている？

P6 ☀️ ミニ解説 市川市域
真間川という川

P7 ☀️ わたしの観察ノート
1～2月などの記録

P8 ☀️ ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。



自然博物館では学芸員が記録した自然観察の記録を自然観察週報としてHPで公開しています。その中から、長田谷津のここ10年の記録に焦点を当て、日付順で記載しました。長田谷津の自然の移り変わり、季節指標などを感じていただければと思います。

長田谷津いきもの暦

4月

本格的な春の訪れを感じる季節です。日が経つごとに生物たちの活動が活発になり、長田谷津のいたるところから生命の息吹を感じます。春一番で羽化するツマキチョウやシオヤトンボ、斜面林を彩るキンラン、鳥たちの美しい囀りなど見どころ満載です。

- 1日 ツマキチョウが飛び始めました(2016)
- 2日 空からサシバの「ピックイー」という鳴き声が聞こえてきました(2021)
- 3日 ミツガシワが咲き始めました(2024)
羽化したばかりのシオヤトンボを沢山見ました(2020)
- 4日 タチツボスミレが咲き始めました(2017)
- 5日 アズマヒキガエルが卵から孵ってオタマジャクシになっていました(2024)
- 6日 サルトリイバラが咲き出しました(2022)
- 7日 立ち入り禁止の場所にある、フクロウの巣に親鳥が座っていました(2021)
斜面林内でチゴユリが咲きました(2021)
- 8日 ノミノフスマが咲き出しました(2022)
- 9日 中央水路でヤマサナエの羽化殻を見つけました(2021)
- 10日 観賞植物園前の池にクロスジギンヤンマの抜け殻がありました(2022)
ジュウニヒトエとヒトリシズカが咲いていました(2020)
- 11日 ホソミオツネトンボの体が青くなりました(2021)
- 12日 湿地はツボスミレが花盛りでした(2015)
- 13日 シメの嘴が鉛色になっていました(2018)
中央水路に網を入れてスナヤツメとホトケドジョウを確認しました(2023)
- 14日 エナガの親子がいました。雛は10羽ほどいて親鳥が餌を運んでいました(2020)
- 15日 斜面林に仕掛けたセンサーカメラにニホンノウサギが映りました(2022)
- 16日 ホタルカズラが綺麗に咲いていました(2022)



シオヤトンボ



キンラン



ウンモンズズメ



ホタルカズラ

- 17日 カケスが求愛行動？をしていました。1羽が餌を運んできて、もう1羽が甘えるような声を出すと口の中に入れていました(2020)
- 18日 クヌギ、コナラが綺麗に咲きました(2017)
エゴノキの葉にエゴツルクビオトシブミがいました(2024)
- 19日 シオカラトンボをあちこちで見かけました。羽化している個体もいました(2020)
- 20日 キビタキの囀りが響き渡っていました(2019)
- 21日 斜面林にキンランが咲いていました(2018)
- 22日 羽化したばかりのオオミズアオがいました(2018)
- 23日 アジサイの葉の上にウンモンズズメの成虫がいました(2023)
イヌザクラの花が咲いていました(2024)
- 24日 ムクノキの葉にチビタマムシの一種がいました(2019)
- 25日 ニホンカナヘビがいました(2015)
2匹のシマヘビが絡み合っていました。
オス同士によって行われるコンバットダンスと呼ばれる行動です(2021)
- 26日 自生株のエビネが咲きました(2022)
ハンノキの葉にミドリシジミの幼虫がいました(2019)
- 27日 ミズキが綺麗に咲きそろいました(2021)斜面林から、コマドリのおさえずりが聞こえていました(2023)
- 28日 ジムグリに出会いました(2017)
- 29日 ハナイカダが咲いていました(2022)
- 30日 園路の上に止まっているヤマサナエが目立つようになってきました(2022)

自然博物館では学芸員が記録した自然観察の記録を自然観察週報としてHPで公開しています。その中から、長田谷津のここ10年の記録に焦点を当て、日付順で記載しました。長田谷津の自然の移り変わり、季節指標などを感じていただければと思います。

長田谷津いきもの暦

5月

草木の芽吹きが進み、緑がどんどん濃くなります。斜面林はキビタキの美しい囀りや巣立ったシジュウカラの雛たちの声でにぎやかです。花数が多いエゴノキやひっそりと咲くハナイカダ、斜面林を紫色に染めるフジなどいろいろな花が咲き誇ります。

- 1日 フクロウが獲物を啜っていました(2020)
タチツボスミレが群生している場所にミドリヒョウモンの幼虫がいました(2023)
- 2日 ギンランが花を咲かせていました(2015)
斜面林からサンショウクイの鳴き声が聞こえてきました(2021)
- 3日 フジが満開になりました(2017)
- 4日 園内のあちこちでキンランが咲いていました(2020)
- 5日 ミツバアケビの葉にアケビコノハの幼虫が付いていました(2018)
- 6日 クロスジギンヤンマが飛んでいました(2018)
- 7日 ハナイカダが満開になりました(2017)
- 8日 アズマヒキガエルのオタマジャクシが子ガエルになりはじめました(2021)
ウグイスが囀っていました(2015)
- 9日 常緑樹の芽吹きが目立ちました。シラカシのつややかな新葉は、斜面林の緑を引き立てていました(2015)
- 10日 エゴノキが満開になりました(2023)
コブシの木にオオアヤシクの幼虫がいました(2024)
- 11日 今年生まれのホトケドジョウの幼魚を見つけました(2024)
アカボシゴマダラの春型と夏型の両方が見られました(2024)
- 12日 ハシブトガラスが水路に降りてアメリカザリガニを捕らました(2023)
- 13日 コオイムシがいました(2018)
- 14日 クロオオアリが結婚飛行を行っていて、翅を落とした女王もいました(2021)
- 15日 キビタキが囀っていました(2022)
- 16日 エノキの枝に大きなヒメヤマユの幼虫がいました(2023)
- 17日 ヒバカリがニホンアカガエルのオタジャクシを捕らえていました(2024)
満開のエゴノキの下は、雪が積もったように白くなっていました(2015)
- 18日 キアシドクガがひらりと飛んでいました(2021)
- 19日 三角池の草むらに小さなアズマヒキガエルが上陸していました(2015)
- 20日 シオヤトンボの季節からシオカラトンボの季節になってきました(2022)
- 21日 斜面林の上をホトトギスが鳴きながら飛んでいました(2018)
- 22日 ナガサキアゲハが飛んでいました(2022)
- 23日 エコアップ池の草むらに上陸したばかりのニホンアカガエルがいました(2021)
- 24日 ヨシが群生している上をアオヤンマが旋回していました(2019)
- 25日 イボタノキが満開でアオスジアゲハや色々な昆虫が集まっていた(2016)
- 26日 シダレヤナギにコムラサキの成虫がきていました(2024)
- 27日 三角池に網をいれるとヌカエビの抱卵個体をとれました(2017)
- 28日 ハンノキ林でシジュウカラの親鳥がマイマイガの幼虫を捕らえて雛に与えていました(2021)
- 29日 大池(噴水池)横で地中からアズマモグラが顔を出しました(2020)
- 30日 園路の上でヒメギスの幼虫の姿が目立つようになってきました(2024)
- 31日 クヌギの樹液にサトキマダラヒカゲが来ていました(2020)



ハナイカダ



エゴノキ



ホトケドジョウ(幼魚)



シジュウカラ(巣立ち雛)

花を透明にして観る*****

ホトケノザ

花を薬品で処理して透明にしました。一般的な押し葉標本だと花も平らになってしましますが、この方法だと立体を保ったまま内部構造を見ることができます。印刷物にすることで結局、平面になってしましますが、実物をそのまま見れば立体的に花のつくりを理解することができます。



ホトケノザの花

- ・ホトケノザの花は、横から見ると細長い筒型。
- ・ラッパのように開口部が大きく開き、そこから昆虫が進入する。
- ・開口部から進むと筒は細くなり、その奥に目当ての蜜がある。
- ・雄しべと雌しべは筒の天井に沿って伸びているので、昆虫の進路に障害物はない。
- ・花の入口天井に雄しべの葯（やく）があり、昆虫の背中に花粉をつける。
- ・同じく入口天井に雌しべの柱頭があり、昆虫が運んできた花粉がついて受粉する。

長田谷津のとりたち

自然博物館で行っている鳥類調査の記録から
一押しのとりにちをエピソードと共に紹介します。

エナガ

エナガは日本では沖縄県を除く都道府県で見ることができる小型の鳥です。長田谷津では年間を通して見ることができます。繁殖もしており、4月の中旬には、巣立った幼鳥を観察することができます(写真1)。

エナガは森の見張り役です。上空を飛ぶ猛禽類を見つけると「チリチリチリー」と、けたたましく鳴きます。この声を覚えると、猛禽類の存在にいち早く気が付くことができます。



写真1: 幼鳥に給餌する親鳥 親鳥は眉斑が薄い
(2020.04.14 長田谷津)

長田谷津にシマエナガ!?

以前、お客様から、長田谷津でシマエナガを見たと言われていただきました。鳥に詳しい方なら、千葉県市川市でシマエナガなんて有り得ないだろうと思うでしょう。しかし、こう思うのも納得なエナガ事情があるのです。

本州の亜種エナガには、目の上に黒色の眉斑(びはん)があり、頭に黒色が目立ちます(写真2)。対して、北海道の亜種シマエナガはこの眉斑がなく、頭が真っ白に見えます(写真3)。そして、千葉県北西部ではエナガとシマエナガの間のような、眉斑が薄い個体が時折、見られます(写真1と4)。薄い眉斑には個体差があり、中には真っ白に見える個体があります(写真4)。お客様がシマエナガと思ったのはこのような個体です。眉斑が薄いエナガがなぜ千葉県北西部で見られるのか、詳しいことは、わかっていません。長田谷津に来た際は 眉斑の薄いエナガ を探してみてください。



写真2: 亜種エナガ
眉斑が濃い普通の個体
(2020.03.24 長田谷津)



写真3: 亜種シマエナガ
眉斑がない
(2017.02.19 北海道根室市)

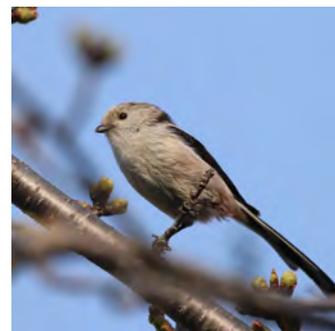
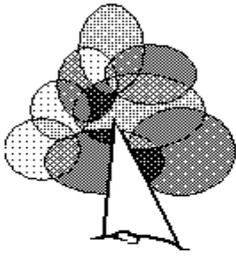


写真4: 亜種エナガ
眉斑が非常に薄い個体
(2025.03.26 松戸市)



どんな花が咲いている？

3月3、4、8、19日は、雨が途中から雪に変わりました。暖かい日を選んで、散歩や庭仕事をしました。1日は、ジンチョウゲやオガタマの仲間が、14日は、ミモザ、カンヒザクラ、コブシが咲いていました。15日はクワイとハスを植え替え、小さなクワイやレンコンが、泥の中からたくさん見つかりました。植木鉢を移動すると、ヤモリが「キュ」といって逃げていきました。玄関先の小さなスペースの庭に、クビキリギスがいました。どの季節でも、成虫のクビキリギスを見ている気がして、自然博の方に聞くと「成虫

で越冬して、これから卵を産んで、一生を終えます」と。カマキリもこの辺りで見ますが、見るたびに、大きさが違っているの、成長していることがわかりました。20日、真間川の桜が咲き始めました。30日、庭のオオシマザクラ？が、いっせいに咲きました。よそのお宅のフェンスのアケビの花が、咲いていました。

この冬は雨が少なく、天気を気にせず、気が向いたときに、出かけられました。気温や天候を気にしつつですが、「どんな花が咲いているか、探しながら歩く」のが楽しい季節になりました。

(M. M.)

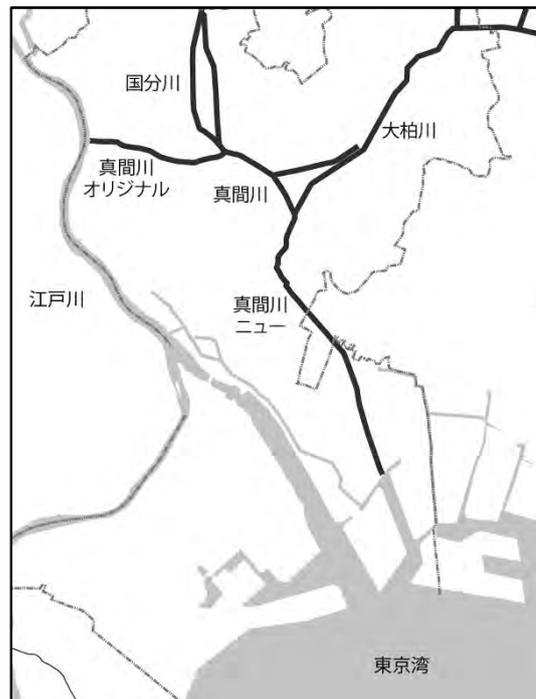
No.1

三二角半言兌

市川市域

真間川という川

真間川は市川市域を代表する川で、多くの人に名が知れています。一方で、わかりにくい川でもあります。真間川をシンプルに紹介するなら、市川市内を流れる大柏川・国分川という2つの川が下流で真間川と名を変え、合流して東京湾に注ぐ、となります。さらにわかりにくいのは、流路の付け替えがあった関係で、地図を見ると河口と河口をつなぐ川に見えることです(図参照)。もともとの流路(真間川オリジナル)は江戸川に注ぎ、後に作られた流路(真間川ニュー)は東京湾に注ぎます。ネット上には、江戸川から分岐して東京湾に注ぐ江戸川の支流という記述がありますが、それは間違いです。



わたしの 観察ノート

◆北国分より

- ・庭に夏の花カラスウリの咲いたあとを見つけました(10/16)。まだ暑い日が続いています。

◆堀之内・小塚山公園

- ・地球温暖化のせいでしょうか。夏の花アサザが2輪まだ咲いていました(11/7)。さすがに木枯らし1号が吹いた立冬の今日を最後に見受けられなくなりました。

以上 谷口浩之さん(北国分在住)

◆長田谷津より

- ・もみじ山の明るい開けた斜面を歩いていたら、足元からイトトンボが飛び立ちました(1/14)。今シーズン多いホソミイトトンボかなと思ってみると、ホソミオツネイトンボでした。

金子謙一(自然博物館)

- ・園路のすぐ横でシロハラが落ち葉をひっくり返しながらか、餌を探していました(1/31)。冬が深まると、園路のすぐ近くで餌を探すシロハラを観察できるようになります。

稲村優一(自然博物館)

- ・アオカワモズクは、去年は1株だけでしたが、12株を確認しました(2/4)。中央水路の水の落差がある場所で、川底の礫が露出し、そこから生えているように見えました。
- ・2月4日にニホンアカガエルの卵塊を数えた後、降雨はありませんが、産み足しが確認されました(2/21)。この日数えたら42卵塊の追加があり、合計で53卵塊になりました。

以上 金子謙一

- ・斜面林の下の湿地をのそのそ歩く、トラツグミを見かけました(2/27)。

◆大町動物園内より

- ・ザリガニ釣り場にカワラヒワが6羽ほどきていました(1/21)。地面において、木の実を食べていました。ムクノキの下だったのでムクノキの実や、飛んできたイヌシデの実(タネ)を食べていたと思われます。

以上 稲村優一

◆坂川旧河口より

- ・古い河道に沿ってビナンカズラが繁茂しています。常緑ですが葉が紅葉し、光に透かされてきれいでした(1/9)。中身を食べてつくされたツルウメモドキの実や、赤くなったタコノアシの花序(実)も見られました。
- ・密生したヨシ原に接する水辺にクイナがいました(2/6)。離れたところから見ていたので逃げることもなく、泥や水の中にクチバシを差し込んで、無心に餌を探していました。

◆江戸川放水路より

- ・強い北風の中、スズガモが風に向き合う形で北を向いて浮かんでいました(2/13)。止まっているように見えたが、北風に押し流されないよう、脚は懸命に水を掻いていたと思います。

以上 金子謙一

◆妙典より

- ・学校の校舎の横にツグミがいました(2/28)。その他に、ハクセキレイ、ジョウビタキなども至近距離で見ることができました。

稲村優一

記録的大雪の地方もありましたが、雨が少なくカラカラ状態が続きました。気温10度超えの日が多くありました。

ホームページをご利用ください



自然博物館では、市川市域の自然に関する情報や解説を、ホームページ（webサイト）に掲載しています。展示室のパネルよりも、ホームページの方が情報量は格段に多いです。検索で「市川自然博物館」と入力いただき、下に示した画面が出てくれば、それが当館のホームページのトップです（検索1番目を開くと市川市役所のページに誘導されてしまう場合がありますので、その時は検索2番目を開いてみてください）。



ホームページの内容

- ・ご利用案内
- ・展示紹介、詳しい解説
- ・行事案内
- ・自然観察の記録、オリジナル動画
- ・博物館だより、出版物のご案内



＜行事のご案内＞

長田谷津は、
大町公園の自然観察園のもともとの呼び名です。

○長田谷津散策会

（申し込み不要・荒天中止）
季節の風景や動植物を楽しみながら、
ゆっくりと散策します。
集合：動物園券売所前 午前10時
解散：集合と同じ場所で 午前11時30分

○湿地の環境整備を

お手伝いしていただきませんか
（要問合せ・荒天中止）
学芸員と一緒に環境整備作業を行います。
たとえば…湿地の草刈、枯れ枝のかたづけ、
水路の整備、など
集合：観賞植物園 午前10時
解散：集合と同じ場所で 正午

初参加の方は

・・・お電話で博物館までお問合せください。
湿地の中に入る作業もありますので作業内容や
身支度などについてご説明します。

	長田谷津散策会	湿地環境整備
4月	19日 土曜日	27日 日曜日
5月	18日 日曜日	25日 日曜日
6月	14日 土曜日	29日 日曜日
7月	13日 日曜日	おやすみ
8月	9日 土曜日	おやすみ
9月	21日 日曜日	28日 日曜日
10月	18日 土曜日	26日 日曜日
11月	16日 日曜日	23日 日曜日
12月	13日 土曜日	21日 日曜日
1月	18日 日曜日	25日 日曜日
2月	21日 土曜日	おやすみ
3月	22日 日曜日	1日 日曜日
		29日 日曜日

第38巻 第1号（通巻第217号）

令和7年4月1日 発行

編集・発行/市川市川自然博物館
（市川市教育委員会教育振興部）

〒272-0801千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477